

SALON2002 月例会

2020.1～2021.1

2020 年はコロナウイルスに翻弄された 1 年だった。1 月の月例会以降、2～3 月は中止、4 月以降は「新型コロナ」「with コロナ」をメインテーマに据えてオンラインで開催した。

各回概要は次のとおりである。詳細は NPO サロンのホームページにある報告書をご参照されたい。

2020年1月（通算281回）

サッカーの脳挫傷の現況とGKヘッドギア標準ルール導入の当否（仮題）

関秀忠（弁護士／NPO法人サロン2002理事）

【日 時】2020 年 1 月 28 日（火）19：00～21：00（終了後はオンライン懇親会～23：30）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室（終了後は「品菜軒」にて懇親会～23：30）注）護国寺方面の中華料理屋「品菜軒」（TEL：03-5981-8992）（「カリンカ」「ルン」「景宜軒」「旺達」跡地にあるお店）

【演 者】関秀忠（弁護士／NPO 法人サロン 2002 理事）

【テーマ】サッカーの脳挫傷の現況と GK ヘッドギア標準ルール導入の当否（仮題）

【参加者（会員・メンバー）6 名】

安藤裕一（（株）GMSS ヒューマンラボ／医師）、岸卓巨（JADA）、斎藤芳（桜丘中学高等学校体育科）、関秀忠（弁護士）、鄭舜圭（一般社団法人 Sport For Smile）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（未会員）4 名】

金岡天夢（JADA）、岸清馨、高橋昌嗣（歯科医師）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）

【報告書作成者】関秀忠

サッカーの GK のいわゆる「1 対 1」のチャレンジは、常にボクシングの「クロスカウンター」の如き一撃の危機を伴うものであり、また、ゴールポストという金属に向かって横っ飛びするという常時危険な運動を行っている。

2017 年 10 月、インドネシアのプロサッカークラブのゴールキーパーがゴール前の激しい激突により顔面・首を負傷し、意識不明のまま死に至るといふ悲しい事件が起きた。しかしながら、その後も 2019 年に名古屋 GK ランゲラク選手や柏 GK 中村航輔選手が、いずれもサイドからのセンタリングに飛び込む類似シーンにおいて、誰にも過失が認められないごく普通に起こり得るプレーで FW と衝突し、脳震盪により救急車で運ばれ、長期離脱を余儀なくされた。

生命や高度障害の危険を伴う脳震盪について、日本サッカー協会も問題意識を持ち、「事故後」に経過観察を行うガイドラインが設けられている。しかしながら、これらの事故を「未然に防ぐための事前策」は、未だに無いと言わざるを得ない。死者や高度障害の危険が出ているにもかかわらず、いつまでも GK は頭部・顎部を守る術を持たず、生身の状態でプレーしている。

このままでよいのか？それとも将来、GK は防具の装着が義務付けられ「カスタマイズされたマウスガード」や「カッコ良い新型ヘッドギア」を付けるのが当然となり、後に振り返ったとき、現在の状況がサッカーの歴史の中の「過渡期」であったということになるのだろうか？

本月例会では、①ヴァージニア工科大学によるヘッドギア装着効果の実験結果が報告されるとともに、②マウスガードの専門家である高橋昌嗣氏により、GK がカスタマイズされたマウスガードを装着した際には、動作は勿論のこと、ゴールキーパーによるコーチング（口頭による指示）にも全く支障を来さないことが示された。また、③ラグビーやアメリカンフットボールにおけるマウスガード・ヘッドギアの実情、④学校スポーツにおける頭部障害事例、⑤法的責任の金額インパクト、⑥すね当ての全世界におけるルール化及びビジネスへの発展経緯、等についても報告された。ヘッドギアやマウスガードの装着やその有用性についての議論を高める出発点となり、サステナブルなスポーツ社会を築き上げるために「今は過渡期」かもしれないという気持ちを持って、未来のために勇気のある正しい判断を下していくための研究とプロセスを積み重ねていくことが示唆された。

今後、①脳神経外科医らによる脳震盪の危険性の医学的検証、②脳震盪サンプル（病院・データ）、③スポーツメーカーヒアリング（レガースルール化及び普及をもとにしたビジネス可能性の模索）、④JFA 各指針に関する聴取、ルール化に向けた障害と実現可能性、⑤米国におけるヘディング禁止事実の当否確認、⑥ラグビー・アメフト関係者のヘッドギア装着の現状と課題の掘り起こし、⑦ GK プレイヤーのヒアリング（実体験・見聞事実その他）など、幅広い分野への広がりが示された。

2020年2月

【日 時】2020年2月28日(金) 19:00～21:00

【会 場】(一社)文京ラグビースクール事務所 文京区白山1-33-24 齋藤ビル2F(都営三田線白山駅下車すぐ)

【演 者】嶋崎雅規(NPO法人サロン2002理事/国際武道大学)

【テーマ】メガスポーツイベントと地域活性ーラグビーワールドカップが地域に遺したもの

<新型コロナウイルスの影響で中止>

2020年3月

<新型コロナウイルスの影響で中止>

2020年4月(通算282回)

「新型コロナ」にどう向き合うか①

ー学校・職場(と自宅)・スポーツイベント

中塚義実(筑波大学附属高校)、笹原勉(株日揮)、徳田仁(株セリエ)

【日 時】2020年4月28日(火) 19:00～21:00(終了後はオンライン懇親会～23:30)

【会 場】それぞれの居場所(ZOOM月例会)

【演 者】中塚義実(筑波大学附属高校)、笹原勉(株日揮)、徳田仁(株セリエ)

【テーマ】「新型コロナ」にどう向き合うか①ー学校・職場(と自宅)・スポーツイベント

【参加者26名】(会員・メンバーに限定)

<NPOサロン会員(12名)> 安藤裕一(GMSSヒューマンラボ)、金子正彦(会社員)、岸卓巨(JADA)、笹原勉(株日揮)、嶋崎雅規(国際武道大学)、関秀忠(弁護士)、田中俊也(三田市整形外科)、茅野英一(帝京大学)、中塚義実(筑波大学附属高校)、本多克己(株シックス)、森田太郎、守屋佐栄(守屋俊秀代理)

<スポネットサロンメンバー(14名)> 浅見明子(J-Workout)、井上俊也(大妻女子大学)、奥山純一、熊谷建志(会社員)、小池靖(在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者)、田中理恵、張寿山(スフィード世田谷FC/明治大学)、土谷享、徳田仁(株セリエ)、野村忠明(埼玉ソーシャルフットボール協会)、原田雄司、福島成人(ヨコハマ・フットボール映画祭)、本郷由希、道端寿奈

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

Zoomを用いた初の「オンライン月例会」。テーマは「新型コロナ」で、3件のトピックが紹介された。

1. 学校の現場からー生徒と教師はどうしているのか

中塚義実(筑波大学附属高校)

1. 経過

2月27日の安倍首相の「休校要請」を受ける形で3月2日から臨時休校が決まり、学年末試験もできないまま2019年度を終えることとなった。4月7日の緊急事態宣言発令に伴い、4月8日の職員会議で「5月6日まで休校」が決まり、入学式も延期。さらに4月28日の会議で「5月末日まで休校期間延長」となる。

2. 対応ーどのようにしているか

授業については「プロジェクトチーム」を設置し、迅速な対応を進めた。オンライン授業実施のために、まずは生徒の通信環境を把握。教員側も、得意な先生に教わりながら各教科で準備を進め、4月11日あたりに配信開始、4月13日からは計画的に進めている。授業以外では、部活動が

春休み中にできなくなり、3年生が目標とする「院戦(対学習院総合定期戦)」も早々に中止が決まった。4月26日には全国高校総体(インターハイ)の中止が決まり、高校3年生は目標とする大会を失ったまま最終学年を終えてしまうことになった。入学式を終えていない1年生は、何もわからぬまゝを過ごしている。担任がZoomを用いて面談やホームルーム活動を行っているが、クラスメートと対面していないので不安を抱える生徒も多い。

保健体育科は原点に立ち返っていろいろ考え、「保体科からのメッセージ」を4月11日に、5名の保体科教員から呼びかける形で配信した。同時に「保体科からの課題」として、①運動しよう、②学習しよう、③観察しようの3つの課題を出し、生徒の生活習慣改善への働きかけを試みた。その後、生徒が「夜型・運動不足・スマホ依存」に陥っていることがわかり、午前中の活動を促す必要があるとの認識に至る。4月22日から毎朝15分間、「朝体操」の時間を設け、学年ごとにZOOMを用いて運動するようにした。

概ね好評で、各学年約 240 名のうち、1 年 150 名、2 年 80 名、3 年 60 名が平均して参加している。

II. 企業の現場から—ミャンマー転勤からの帰国

／自宅はどう過ごすか 笹原勉 (株)日揮

1. ミャンマー転勤からの帰国

所属している会社からヤンゴン事務所長の命を受けて、3 月 2 日にミャンマーに赴任。しかし、ミャンマーで最初の感染者が確認され、全世界からの渡航制限が発令された翌日、ミャンマーの脆弱な医療体制を考慮して会社から一時帰国の指示。赴任後 1 月も経たない 3 月 26 日に一時帰国した。

2. 自宅はどう過ごすか

3 月 27 日の朝、日本に帰国。その日から在宅勤務が始まった。在宅勤務をすると通勤がなくなるだけでなく、社内の会議室などへの移動がなくなり、食卓やトイレも近いので、極端に歩かなくなる。また、執務環境の良くない机やいすで一日中 PC に向かっているのが、首、肩、腰などに疲れがたまる。少しでも運動不足を解消しようと、朝は隔日でインターバル速歩と体幹トレーニングを 30 分ほど行い、お茶の時間にはラジオ体操などで体を動かすようにしている。速歩を行わない日の歩数は平均 1000 歩前後、ひどい時は 500 歩強。ごみを出しに行くだけで 200 歩は歩くので、500 歩というのがどれだけ動いていないかがわかる。

私の勤務する会社の英語名は JGC という。世界各地でプラント建設を行っている。今回のコロナに際して在宅勤務者及び現場勤務者の体調を維持するべく、フィットネスクラブのルネサンスと提携して“JGC 体操”を作成した。当初は社内でのみの配布だったが、期間限定（緊急事態宣言による外出規制の 5 月 6 日まで）で Youtube でも配信し

ており、5000 回以上のアクセスがあった。そのうち半数は社外からのアクセスとのこと。

III. スポーツイベントがなくなって

—観戦ツアーの現状と今後／経営者の苦悩 徳田仁 (株)セリエ

1. 現状

旅行業界においては、軒並み 3 月以降ほとんど売上がないのが現状。私の会社も 4 月以降の売上（受注分）は、3 月中にきれいにすっ飛んでいる状況である。今や旅行業をはじめ航空業界や旅館・ホテル業界、バス業界など、影響は観光業全般に広がっている。

弊社が取り扱う種類の旅行商品の場合、旅行の目的であるイベント＝「試合」が再開されない限り、売るべき商品を企画することもできないため、まったく身動きがとれない。

2. これからどうする、どうなる？

①フットサルに関して…アジア予選とワールドカップ

延期された 8 月のトルクメニスタンはずかしいのでは？ フットサル・ワールドカップ（9 月予定）については 4 月中に何らかの発表があるらしい。

②EURO、コパアメリカ、オリンピック…世界規模の大会は 1 年延期が決定

③ワールドカップ予選…2 次予選の 3 月・6 月開催分が延期、最終予選は来年か？ 次のワールドカップは 2022 年 6 月ではなく、11 月なので遅れても間に合う？

④欧州サッカー 各国リーグとチャンピオンズリーグ…UEFA は一度 2019-2020 シーズンのリミットは 8 月上旬としたが後日撤回。

2020年5月（通算283回）

「新型コロナ」にどう向き合うか②

一部活動・市民イベント・障がい者の現場より

嶋崎雅規 (国際武道大学)

本多克己 (株)シックス／神戸アスリートタウンクラブ)

浅見明子 (J-Workout株式会社)

【日 時】2020 年 5 月 29 日 (金) 19:00 ~ 21:00 (終了後はオンライン懇親会 ~ 23:30)

【会 場】それぞれの居場所 (ZOOM 月例会)

【演 者】嶋崎雅規 (国際武道大学)、本多克己 (株)シックス／神戸アスリートタウンクラブ)、浅見明子 (J-Workout 株式会社)

【テーマ】「新型コロナ」にどう向き合うか②—一部活動・市民イベント・障がい者の現場より

【参加者 (会員・メンバー) 20 名】

浅見明子 (会社員 ジェイ・ワークアウト)、安藤裕一 ((株)GMSS ヒューマンラボ)、井上俊也 (大妻女子大学)、梅澤佳子 (教員：多摩大学 中塚さんと同じ研究室でした)、開沼位晏 (明治大学・学生)、春日大樹 (会社員・筑波大学蹴球部 OB)、金子正彦 (会社員)、岸卓巨 (サロン 2002)、熊谷建志 (会社員)、小池靖 (在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者)、笹原勉 (日揮グローバル)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、竹内佳久 (スペシャルオリンピックス)、田中俊也 (静岡県三田市整形院長)、田中理恵 (会社員)、茅野英一 (帝京大学)、土谷享 (美術家、KOSUGE1-16 代表)、中塚義美 (筑波大学附属高校)、本郷由希 (会社員)、本多克己 (シックス、神戸アスリートタウンクラブ)

【懇親会からの参加 (会員) 1 名】 梅本嗣

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

I. コロナ下での部活動のあり方

～部活動の本質的な価値を見直す～ 嶋崎雅規（国際武道大学）

学校の休校が続き、生徒たちがスポーツを楽しむ場も失われている。高校総体（インターハイ）の中止も決まり、目標を見失った生徒たちも数多くいることだろう。マスコミの論調は、「史上初となる中止の決断に選手、指導者らは無念の思いをにじませた」（朝日）、「選手指導者は大きな目標がなくなったことを嘆く」（読売）など、出場を目指していた選手や指導者がかわいそうという論調ばかりである。

今こそ、部活動を生徒の手に取り戻すチャンス

学習指導要領にみられるように、部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」活動である。本来は、生徒が自分たちで活動を組織するものである。しかし、今までの部活動は、すでにある部活動の中から選ぶ、決められた大会（主に中体連・高体連主催の大会）に出場する、練習メニューや練習試合の相手も先生が決めるなど、決して生徒主体の活動にはなっていない。この「コロナ禍」は、それを生徒の手に取り戻すチャンスととらえられないだろうか。3年生が最後に本気で戦う場合は、生徒たち自身が考え、アイデアを出し合い、生徒たち自身の手で作らせてあげられないのだろうか。アイデアは、いろいろと考えられる。たとえば、普段から親交のある学校同士で、どの競技も対抗戦を行うことも考えられる。両校の生徒やOB、保護者の応援のもと、母校の意地をかけた戦いは、一生の思い出となることだろう。また、単一競技でも、各都道府県内の同レベルのチームでリーグ戦を行うことも考えられる。こうしたアイデアは、まだまだ考えられるだろう。大人たちは、生徒たちのアイデアを実現するための経済的・組織的支援を行えばよいのではないかと。

II. 市民参加型スポーツイベントとスポーツ NPO とコロナウイルス

本多克己（株式会社シックス／神戸アスリートタウンクラブ）

民間企業、NPO としてスポーツイベント、体育館の運営などにかかわっており、コロナウイルスから大きな影響を受け

ている状況を報告した。特に、フットサルフェスタ（旧ホンダカップ）については、今後のあり方など意見交換を行った。

NPO で主催しているリレーマラソン大会は神戸、豊中で3月の開催を目指し、コロナ対策を徹底しての準備を進めていたが直前に中止を決定。参加者や関係者からは厳しい言葉があることを覚悟していたが、クレームなどはほとんどなく、コロナ対応への理解が進んでいることが感じられた。また、NPO で運営している体育館も3月以降、休業となった。社員2人のみが出勤する体制で、休業に対する補助金などの支給を受けている。補助金や給付金は手続きが簡素化されているが、過度に緩和、簡素化が進んでいるのではないかと懸念もある。また、今後開催予定の大会については、with コロナの環境での開催となるが、その対策については、今後十分な議論が必要と考えている。

III. 脊髄損傷者専門のトレーニングジムからみえること

浅見明子（J-workout 株式会社）

私が勤めるのは、「一生車いす」と医師から宣告された脊髄損傷者が再歩行を目指し通うジム。病院のリハとも一般のフィットネスともちょっと違ったジムには約500名が通っている。

コロナ禍における運営

脊髄損傷の方は、健常者に比べ、内臓なども機能が衰えている場合が多く呼吸機能の低下により疾患が重症化しやすい傾向にある。その中で、以下のような対策を行いながらジムの運営を行っている。

スタッフ・クライアントのマスク着用、こまめな手指アルコール消毒の徹底、朝の検温チェック、公共交通機関利用の禁止、来館の際車椅子のタイヤ・ハンドリムのアルコール消毒など感染防止を徹底している。またトレーニングにおいて密になりやすい状況の中、人数の制限、換気の徹底、十分な空間維持などの対策を行っている。コロナ禍での新しいプログラムとしてオンラインを最大限に活用し、自宅でも運動ができる場を提供し、脊髄損傷者に対して運動の継続・大切さを呼びかけている。

2020年6月（通算284回）

NPOサロン総会後の意見交換会ー ー「withコロナ」の時代に向けて

【日 時】2020年6月20日（土）16:30～18:00（終了後はオンライン懇親会～22:00）

【会 場】それぞれの居場所（ZOOM月例会）

【テーマ】NPOサロン総会後の意見交換会ー「withコロナ」の時代に向けて

【参加者12名】＜NPOサロン会員（8名）＞ 安藤裕一（GMSSヒューマンラボ）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（JADA）、笹原勉（株日揮）、関秀忠（弁護士）、茅野英一（帝京大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（株シックス）

＜スポンネットサロンメンバー（4名）＞ 浅見明子（J-Workout）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、徳田仁（株セリエ）、本郷由希

【報告書作成者】中塚義実

1. 月例会と会員・メンバーの位置づけ 2. サロンからの情報発信ーU-18フットサルの活かし方 3. 月例会の名称・あり方 4. 今年度の公開シンポジウム 5. その他 上記の1～5について、自由に意見交換が為された。

「withコロナ」の時代に向けて①

ー2020年度のU-18フットサルをめぐって

中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（株シックス）ほか各参加者

【日 時】2020年7月8日（水）19：00～21：00（終了後はオンライン懇親会～23：30）

【会 場】オンライン（Zoom）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて①ー2020年度のU-18フットサルをめぐって

【演 者】中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（株シックス）ほか各参加者

【参加者（会員・メンバー）7名】小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（シックス、神戸アスリートタウンクラブ）、岸巨卓（サロン2002）、浅見明子（J-Workout株式会社）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会）

【参加者（未会員）8名】 谷田直文（神戸国際大学附属高校）、小曾根潮（立命館宇治中学）、永松慎二（フローライト・マキナ）、有吉朋喜（Futsal Club BUBBLE）、橘和徳（富山中部高校）、金子諭（FFCスポーツアカデミー）、竹山こはる・野田勇紀（明星大学教育学部3年／保体科教育法受講生）

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

I. U-18 フットサルの20年

ーサロン2002と東京都サッカー協会の取り組み 中塚義実

1. サロン2002とフットサル

2. U-18 フットサルのはじまり

ーそれは東京都フットサル委員会の議論から始まった

2001年8月に開かれた（公財）東京都サッカー協会（TFA）主催「第1回東京都ユースフットサル大会」が、U-18年代の公式大会の始まりである。翌年2月には「第1回東京都フットサルチャレンジU-18」が開かれ、翌年からは夏と冬の大会名を入れ替えた。年2回の都内完結型競技会は、フェスティバルとしていまも続く。8月のJFA主催大会予選と年間を通してのリーグ戦もあり、東京都ではU-18年代の充実したフットサル環境が整備されている。

II. 2020年度のU-18フットサル①

ー第20回東京都フットサルチャレンジU-18をめぐって 中塚義実

1. 「新型コロナ」とU-18年代のフットボール

「新型コロナ」の影響で、3月から全国の小中高は一斉休校となった。4月初旬の緊急事態宣言発令により休校期間はさらに伸び、全国規模の競技会やその予選、リーグ戦や定期戦など、U-18年代のスポーツ行事は軒並み中止・延期となった。都内完結型のフェスティバルである「第20回東京都フットサルチャレンジU-18」をこのような状況下で開催するべきか否かについて議論した。

2. アンケートの実施と開催の方向性

まずは、これまで同大会に参加したクラブの代表者にアンケート調査を実施することにした。アンケートには21クラブ（学校運動部15、フットサル/サッカークラブ6）の代表者から回答があった。大会が開かれた場合、「参加を希望する」が15、「どちらともいえない」が6あった。

3. 「大会の方針」の提示と告知

ユース部会で意見交換して作成した「大会の方針」は、以下の通りである。

大会の方針

【目的】

- 1) フットサル活動再開の喜びを分かち合う
- 2) “with コロナ”の時代にふさわしい大会とする

【内容】

- 1) チャンピオンを決する競技会ではなく交流試合として行う
- 2) 参加者自身が“当事者”として大会運営に関わる

【運営のポイント】

- ・ 同時時間帯に体育館内にいる人数を制限する（短時間で入れ替わる）
- ・ 審判と運営スタッフはTFAから派遣する。ただし参加チームの協力を求める。
- ・ 各チームには責任能力ある大人が帯同し指導する。
- ・ 感染症予防対策と暑熱環境対策に留意する。

代表者会議が開かれた週の後半から、東京都内の陽性者数が顕著に増加してきた。他県への拡大傾向もある。結局、8月3日付で「中止」の連絡を各チームに連絡することとなった。

III. 2020年度のU-18フットサル②

ー神戸グリーンアリーナカップをめぐって 本多克己

1997年以来、株式会社シックスという民間企業の立場でフットサルの全国大会を開催してきた。ニッポンハムが11年、本田技研が10年間スポンサーしてくれて、全国最大規模の大会となったが、今年はコロナの影響で秋以降の開催を目指して準備中。

2012年には特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブの理事に就任することになり、NPOが運営しているグリーンアリーナ神戸で大会を開催することができるようになった。しかし、現状で全国からのチームを集めての開催は難しいと考えており、どのような形で開催できるのか、開催すべきか否かについて検討を続けている。現状での募集案としては、宿泊をともなう参加は不可とし、1日ごとに優勝を決定。出場チーム数も限定して開催というものを考えている。

<補足>

グリーンアリーナ神戸カップU-18フットサルフェスティバルは8月22日（土）、23日（日）の両日に開催。女子は開催なし、男子は両日とも6チームで行った。

2020年8月 (通算286回)

「withコロナ」の時代に向けて② ースポーツは人々のライフラインとなれるか (アフリカ編)

岸 卓巨 (A-GOALプロジェクト代表、一般社団法人アフリカクエスト理事、NPO法人サロン2002理事)

【日 時】2020年8月20日(木) 19:00～21:00 (終了後はオンライン懇親会 ～ 23:30)

【会 場】オンライン (Zoom)

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて② ースポーツは人々のライフラインとなれるか (アフリカ編)

【話題提供者】岸 卓巨 (A-GOAL プロジェクト代表、一般社団法人アフリカクエスト理事、NPO 法人サロン 2002 理事)

【参加者 (会員・メンバー) 8 名】 安藤裕一 (株) GMSS ヒューマンラボ)、岸卓巨 (A-GOAL プロジェクト代表)、小池靖 (在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、茅野英一 (帝京大学)、張寿山 (明治大学)、中塚義美 (NPO 法人サロン 2002 / 筑波大学附属高校)、野村忠明 (埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員)

【参加者 (未会員) 23 名】 網代健人 (無所属)、厚東芳樹 (北海道)、雨宮知子 (CHEZA)、今子由紀 (クラーク記念国際高校)、金森大輔 (JICA 南スーダン事務所)、上村優太 (守口ローターアクトクラブ)、木村汐里 (関西学院大学)、佐藤樹生 (学生)、高橋旺子 (NPO 職員)、竹田憲一 (個人事業主)、丁岩 (個人)、内藤優和 (JICA アフリカ部)、中尾優子 (ファーマプロダクト)、半井真 (CHEZA)、花田優子 (Shaplaneer)、林幸弘 (株式会社リンクアンドモチベーション)、広瀬光 (Peace Tech Foundation)、法貴潤子 (フリーランス)、宮嶋泰子 (カルティベータ)、森康弘 (宇都宮市立上河内西小学校)、柳田主税 (株式会社 ChiMa Sports Promotion Japan)、横山裕司 (アフリカクエスト)、米田耕太郎 (京都大学大学院)

コロナ禍において、さまざまなスポーツ活動が停止している。しかし、このような難しい状況だからこそ発揮できる「スポーツの力」があると考えている。

その一例として、今回の月例会では「A-GOAL プロジェクト」について紹介する。

アフリカでは、新型コロナウイルスの感染者数が、依然として増え続けている。ロックダウンの中で多くの人が仕事を失い、毎日の食事すらままならない状況が発生している。ケニアでは、学校再開も来年 1 月まで延期が決まり、全生徒の留年が決定した。

そのような状況の中で、アフリカ現地の地域スポーツクラブを「ハブ」に、食糧や衛生用品を住民に届け、啓発活動を行う「A-GOAL プロジェクト」を 5 月 16 日に立ち上げた。

普段からスポーツ以外の地域貢献活動 (犯罪防止のための

ワークショップ、清掃活動など) を行っているアフリカの「地域スポーツクラブ」だからこそ、本当にニーズのある人に支援を届けることができるという仮説のもとプロジェクトを始めたが、これまでにケニアとナイジェリアで 500 世帯 (約 2500 名) に食糧を届け、その仮説が間違っていなかったということが見えてきた。

また、アフリカ現地に直接行くことが難しい中で、A-GOAL プロジェクトでは、オンラインコミュニケーションツールを活用し、約 80 名の日本人メンバーと現地のサッカークラブ指導者が連携してプロジェクトを運営している。

月例会では、A-GOAL プロジェクトの紹介だけでなく、他の活動でも応用できるスポーツの役割やオンラインでのプロジェクトマネジメントの実例などについて報告された。



2020年9月（通算287回）

「withコロナ」の時代に向けて③ ー地域スポーツクラブの現場より：ドクターの視点から

安藤 裕一（株）GMSSヒューマンラボ

【日 時】2020年9月25日（金）19：05～21：10（終了後はオンライン懇親会 ～23：30）

【会 場】オンライン（Zoom）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて③ー地域スポーツクラブの現場より：ドクターの視点から

【演 者】安藤 裕一（株）GMSSヒューマンラボ

【参加者（会員・メンバー）9名】

安藤裕一（（株）GMSSヒューマンラボ）、春日大樹（会社員）、岸卓巨（NPO サロン事務局長）、小池靖、笹原勉（日揮グローバル）、関秀忠（弁護士）、張寿山（明治大学／スフィード世田谷）、中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）、本郷由希（会社員）

【参加者（未会員）18名】

梅田宏幸（会社員）、浦井智治（吉川市立吉川中学校）、木村晃（日野市サッカー連盟）、兒玉友（日本福祉大学）、佐藤幸子（公益財団法人ジョイセフ）、澤江幸則（筑波大学）、白石稔（八王子スポーツ整形外科）、竹尾浩輔（熊本市立碩台小学校）、多田省吾（筑波大学附属坂戸高等学校）、田中章（One to one）、谷藤千香（千葉大学）、坪井正人（裾野市サッカー協会）、野田勇紀（明星大学教育学部3年）、畑地桂（ジョイセフ）、福田志のぶ（つくばユース MDC）、三笠裕史（神奈川県立平塚江南高校）、三好圭子、吉澤昌好（認定NPO 法人トラッソス）

1. 新型コロナウイルスにまつわる社会と国内スポーツ界の動き

新型コロナウイルス感染症に関連した社会の動き並びに国内スポーツ界の動きを確認した。新型コロナウイルスによって子供も大人も、2月末より5月末までの3ヶ月間、集まってスポーツする機会を失ってしまったことになる。

2. 新型コロナウイルス発生例

会員が新型コロナウイルスに感染した例は、千葉県柏市に本拠地を置くスマイルクラブで発生した。このクラブは、1998年より任意団体として発足2000年にNPO法人となった。現在会員数は約1000人だが、4割である400人が発達障害などの障害をもっている子どもや成人であることが一つの大きな特徴となる。

このクラブは、多くのスポーツクラブが行っているのと同様に新型コロナウイルス対策を実施していた。会員である中学生が、通学先の中学の別の運動部員を通して感染したようで、その中学生が感染していることを気づかずにクラブの球技に参加、参加した3日後に保健所よりPCR検査で新型コロナウイルス陽性であったと通知が入り、これを受け同クラブはその球技を始め全ての活動を中止。同クラブに当日参加した濃厚接触者は全員PCR検査を実施したところ全員陰性だった。8月14日まで自宅待機（活動は休止）、お盆明けである8月17日から活動を再開した。
＜この後、この話題について活発なディスカッションが行われた＞

3. 地域スポーツのアンケート報告

スマイルクラブを含め7つのスポーツ団体にアンケート調査を実施、結果が報告された。所在地は6都道府県、総合型地域クラブが4団体、バレー、ハンドボール、サッカーがそれぞれ1団体。

新型コロナ対策指針は、多くが日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協作成成のものが最も参考にされていた。特に気をつけている感染対策は、会員やスタッフの健康管理、施設や用具の消毒などが主なものであった。活動休止期間は団体によって差があるが、行政の指導の違いも反映しているようだ。これまでにスタッフや会員で新型コロナウイルス感染者が発生したのは、7団体のうち1団体（スマイルクラブ）だけ。主なデメリットは、会員数の減少、収入の減少、活動する種目の減少、活動できる施設の減少といったこと。一方コロナによるメリットは少ないが、補助金収入があったこと、子供たちの安全をより一層考えるようになったこと。

with コロナの時代の地域スポーツクラブの今後の展望については、①継続的なクラブ運営を行っていくにあたり、会費収入以外の新たな収入源の確保や、会員へのサービスの向上を考えることが必要、②感染に気を付けながら、子供が運動できる場を提供する努力を大人が怠らないことが重要、③オンライン活動の発展の可能性、④「安心」というキーワードが重要になるので、「安心」してスポーツ活動に参加できる取り組みと繋がりを通して、皆で検討していく必要性、⑤活動再開時ははつらつとした笑顔を見ると地域のスポーツクラブとして皆さんの生活に寄り添いながら、健康的な生活をサポートしていきたい、⑥何もかも中止にするのではなく、どうやったら出来るかを考えて進めることが大切（同様意見あり）などが挙げられた。

＜この後、さらに活発なディスカッションが行われた＞

2020年10月（通算288回）

「withコロナ」の時代に向けて ④

ー日本におけるスポーツボランティアの経緯と今後

小松章一（行政書士）

【日 時】2020年10月29日（木）19：00～21：00（終了後はオンライン懇親会～23：30）

【会 場】オンライン（Zoom）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて ④ 日本におけるスポーツボランティアの経緯と今後

【演者】小松章一（行政書士）

【参加者（会員・メンバー）9名】 浅見明子（NPO サロン理事）、安藤裕一（㈱ GMSS ヒューマンラボ）、笹原勉（日揮グローバル㈱）
嶋崎雅規（国際武道大学）、田島璃子（NPO サロン事務局／早稲田大学 1 年）、中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）、
野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員）、本多克己（特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ）、吉原尊男

【参加者（未会員）8名】 有馬亮二（㈱レガール）、有村実寿々（筑波大学附属高校 1 年）、高橋正紀（岐阜協立大学）、垂見麻衣、
渋谷茂樹（日本スポーツボランティアネットワーク）、かさいりょうこ、城村 KUMA 勉、森実鉄夫（社会人）

【報告書作成者】 田島璃子、中塚義実 ほか

＜演者のボランティア経歴＞

2002 年 FIFA ワールドカップ メディアセンター
2006 年 FIFA 世界バスケットボール選手権（さいたまスーパーアリーナ）観客の誘導
2007 年 第 3 回アメリカンフットボール世界選手権 IN 川崎川崎球場、等々力陸上競技場
2007 年から 東京都サッカー協会 フットサル 運営スタッフ
2008 年 から 東京 国際 マラソン 運営スタッフ
2013 年 スポーツ祭東京 2013 ボランティア（国体・障害者スポーツ大会）
2018 年 世界女子ソフトボール 選手権・オリンピック予選会（千葉）
2019 年 ラグビーワールドカップラグビーワールドカップ 2019 ボランティア…… 駅案内
2020 年 TOKYO2020 オリパラボランティアの予定が延期 … フィールドキャスト、シティキャスト
2017 年から FC 東京スポーツボランティア
2018 年から 葛飾区スポーツボランティア

上記のボランティアについて、イベント型のものと継続型のものに分けてプレゼンテーションがあった。さらに、スポーツボランティアのタイプを、①競技支援型、②イベント参加型、③地域盛り上げ型の 3 タイプに分け考察を行った。

日本で行われる国際大会では「こんな初めて」「こんなにうまくいったのはボランティアがスムーズだった」との意見が聞かれる。その理由として、研修プログラムの充実が挙げられる。

スポーツボランティアの問題点として、リーダーの人材育成がまだまだ不足している。2002 年はリーダーがおらず、みな同じ立場だった。リーダーを置くかたちを確立したのが東京マラソン。人数が多くなると、まとめる立場が必要。リーダーの養成に力を入れ、ボランティアを取り仕切るボラン

ティアが出てきたが、歴史的には浅い。

「新型コロナ」が事前研修のオンライン化に拍車をかけた。オンラインがスムーズにしているからか、現場の混乱は聞こえてこない。しかし、人間関係を築く機会が減った。もともと知っている人どうしの方がやりやすい。

ボランティアのシステムは発展途上で改善の余地がある。環境整備や人材育成がもっと必要である。

「withコロナ」の時代に向けて⑤

ー運動部活動における「大会」の意味・意義を考える

蔵森紀昭（成城学園高校／全国高体連サッカー専門部技術委員長）

嶋崎雅規（国際武道大学）

中塚義実（筑波大学附属高校）

【日 時】2020年11月19日（木）19：00～21：00（終了後、オンライン懇親会は23：30まで／ライブは23：50まで）

【会 場】オンライン（Zoomとライブのハイブリッド ※演者2名は「はなの舞 茗荷谷店」から配信）

【テーマ】「withコロナ」の時代に向けて⑤ ー運動部活動における「大会」の意味・意義を考える

【演 者】蔵森紀昭（成城学園高校／全国高体連サッカー専門部技術委員長）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（会員・メンバー）13名】 安藤裕一（（株）GMSS ヒューマンラボ）、金子正彦（サロン 2002）、川戸湧也（仙台大学）、岸卓巨（NPO サロン事務局）、北原由（都立武蔵高等学校）、小池靖、嶋崎雅規（国際武道大学）、高田勝敏（SV Empor Berlin e.V.）、茅野栄一（帝京大学）、張寿山（明治大学／スフィード世田谷）、中塚義実（NPO サロン理事長／筑波大学附属高校）、本郷由希（サロンメンバー）、安松幹展（立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科）

【参加者（未会員）5名】 川島健司（読売新聞東京本社編集委員室）、蔵森紀昭（成城学園高校）、城村勉、前川敏也（FC マトリックス）、由井一成（学習院大学）

【報告書作成者】 田島璃子、中塚義実 ほか

I. コロナ禍の運動部活動

ーある高校の現場より

中塚義実

4月7日に緊急事態宣言が発令され、休校期間が延長される。「生徒の学習保障」について、いまだかつてないほど教員が連携しあい、いち早くオンライン授業への取り組みを始めた。休校期間は5月末まで続き、6月1日から学年単位の分散登校がはじまり、生徒はホームルームと体育実技のみ行った。休校期間を通して体育の重要性を皆が認識できたのはよかった。短い夏休みが終わり、8月24日の休み明けから40分の6時間授業になり、10月中旬の後期からは45分授業。まだ平常ではないが、徐々に元に戻している。

部活動関係では、3月の「湘南戦」中止、春休み部活動禁止、4月からの「開成レース」、「院戦」、そして高校総体が中止と、大会の中止が続く。6月に分散登校が始まって、最初のうち部活動はできなかった。6月中旬から徐々にできるようになったが、1年生の入部は遅れた。そしてほとんどの3年生は活動を再開しないままやめていった。

II. ユース年代の「大会」をめぐる

ーサッカー 界の動向

蔵森紀昭

1. コロナ禍における高校サッカー選手権大会

ー「大会」をどう位置付けるか

コロナの経験によって、当たり前が当たり前でないとたくさん気づかされた。一つがトーナメントという考え方。トーナメントとリーグのそれぞれにメリットとデメリットがあるが、最終的には両方を交えたゲーム環境が、日本ならではの環境になるのではないかと考える。

2. 今後に向けて

- 1) 全てをコロナのせいにはしない。コロナを経験してわかったことを学びとして生かす。
- 2) 大きな変化を好まない日常が存在していることを自覚する。

- 3) 小さな変化・改革を縦と横に拡散する意識が大切。

（縦：高校年代から中学・大学年代へ 横：サッカーから他種目へ）

- 4) 現状維持は危機であるという認識から議論をスタートさせることが大切である。
- 5) ボトムアップとトップダウンの両方向から議論をスタートさせる。
- 6) 何もしないことは罪である。コロナでの学びを無駄にせず、今こそアクションを！

III. 運動部活動と「大会」

ーコロナ禍でみえたこと

嶋崎雅規

1. コロナ禍の高校野球報道から感じたこと

昨夏、選抜出場予定の32校が交流戦を行った。「なんでそこまでして甲子園で野球をしなければいけないか」と当初感じていたが、いざやってみると、普段の甲子園とは違う良さがあった。交流大会ということで、勝っても負けてもそこで終わり。そこで、勝ち負けより大切なもの、全力で野球をする喜びに気づいたのではないかと。そして主催者、運営スタッフがいる非日常の場で、感謝の気持ちが生まれたのではないかと。

2. 生徒の自主的な活動として

そもそも学習指導要領では、部活動は生徒の自主的・自発的な参加としており、教育課程との関連が図られるようになっている。しかし今までの部活動は、すでにあるものから選び、練習メニューや試合は先生が決めるという学校が多い。コロナ禍を機に見直すべきではないか。生徒の手に取り戻すチャンスである。先ほど「院戦」の話があったが、生徒の実行委員会が運営している。早慶戦など規模の大きいものが大学にはあるが、こういうことを子どもの側から提案してみてもどうだろうか。プライベートリーグを組むなど。生徒だけでやるのは難しいので大人が支援するべきだが、できることは生徒が考えるべき。

2020年12月（通算290回）

午前・午後の2部構成で公開シンポジウム ＜「With/Afterコロナ」の時代に向けてーコロナ禍でみえた “ゆたかな暮らし”の新しいすがた＞を実施

2021年1月（通算291回）

第5回U-18フットサルリーグチャンピオンズ カップを振り返って

中塚義実（NPOサロン理事長／筑波大学附属高校）
本多克己（NPOサロン副理事長／株式会社シックス）
田島璃子（NPOサロン事務局／早稲田大学1年）ほか

【日 時】 2021年1月28日（木）19：00～21：00（終了後はオンライン懇親会～23：30）

【会 場】 オンライン（Zoom）

【テーマ】 第5回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップを振り返って

【演 者】 中塚義実（NPOサロン理事長／筑波大学附属高校）

本多克己（NPOサロン副理事長／株式会社シックス）

田島璃子（NPOサロン事務局／早稲田大学1年）ほか

【参加者（会員・メンバー）12名】

安藤裕一、金子正彦、岸卓巨、小池靖、嶋崎雅規、関秀忠、田島璃子、徳田仁、中塚義実、野村忠明、本多克己、本郷由希、

【参加者（未会員）5名】

荒川浩幸（北海道）、磯かずあき（東京）、迫田なおふみ（兵庫）、橘和徳（富山）、小曾根潮（京都）

totoの助成を受けNPOサロンが主催する標記大会が、1月9日～10日、長野県千曲市で開かれた。16チームのノックアウト方式で行われ、ペスカドーラ町田がZOTTWASEDAとの東京対決を制して初優勝。「U-18フットサル20周年」の東京都に初栄冠をもたらした。

緊急事態宣言下で開催すべきかについては最後まで悩んだが、長野の方々と何度も協議し、＜大会に携わるすべての人が「withコロナ」の新たな様式を理解し実践する＞ことを徹底して開催することとした。withコロナの「新たな様式」が高校生にどこまで徹底できるかが課題だったが、参加チームの意識は高く、ほぼ達成できた。

今回はzoomを用いた試合映像のライブ配信にも取り組んだ。会場に来られない保護者やチームメイトがリモートで応援できるような仕組みである。これも「新たな様式」の一つ。

緊急事態宣言だけでなく大雪の影響もあった。さまざまなトラブルを乗り越え、最後まで実施できたのは地元長野県の

方々のご尽力と、「大会に携わるすべての人」の思いが繋がった証だと思う。

担当理事の本多克己と理事長の中塚義実が大会全体を振り返り、参加チームからも大会の印象や各地のリーグ状況についてコメントをいただいた。動画配信についてはサロンの新戦力・田島璃子が報告した。「新たな様式」を共有する機会になった。

1 第5回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ

主催者メッセージ

“With コロナ” の新たな様式ー第5回大会を終えて

たいへん難しい判断でした。緊急事態宣言が発令され、1都3県のみならず地元長野も感染拡大が続く中で、大会を行うべきか否か。最後まで悩みました。

すべての人の健康と安全が大前提です。そのため「無理をすべきではない」ことははっきりしています。一方で、「できる可能性が少しでもあるならチャレンジすべき」の思いもあります。スポーツは不要不急ではありません。人生をゆたかにする大切な活動です。「大会に携わるすべての人が、“With コロナ”の新たな様式を理解し実践すること」が開催の条件であることを、指導者間では共有しましたが、全選手・関係者があらゆる場面で徹底できるかは不確かでした。「新たな様式」には、円陣、大声、抱擁といった行為を慎むことも含まれます。握手もなしです。それらがなくても気持ちを高めることができるのか、勝利の喜びを表現できるのか、相手とハートをつなぐことができるのか…。

多くの方から「開いてくれてありがとう」と言ってもらいましたが、決勝戦が終わったあとも、まだ確信は持てません。ほんとうに「新たな様式」は徹底できたのだろうか。また「新たな様式」と我々が思っている方法は、ほんとうに適切だったのだろうか…。見えない敵との戦いは、フットサルの試合よりはるかに難しいものです。閉会式の主催者挨拶では、そんな気持ちが頭の中にあっただけ、「おめでとう」「あ

りがとう」より先に、開催判断の難しさと「まだ終わっていない」ことを述べました。「少なくとも家に帰って2週間は自己観察を続けてください。そこまでが大会です」と。さらに、「この大会で感じ、考えた“With コロナ”の新たな様式は、これからもずっと続けてください」と続けました。「新たな様式」は大会期間中だけでなく、普段から心がけ、実践していくもの。心からそう思います。

大雪の影響で試合時間に間に合わないトラブルから今大会が始まりました。U-18年代の公式戦は今年度初めてです。はじめのうちはぎこちない様子でしたが徐々に慣れ、決勝戦は素晴らしい試合となりました。優勝したペスカドーラ町田、準優勝のZOTT WASEDAだけでなく、参加して下さったすべてのプレーヤー、スタッフ、審判や競技運営に携わる長野県フットサル連盟の皆さん、宿泊や移動に力を注いで下さった皆さん、動画配信を担って下さった方々を含め、日頃からU-18フットサルを応援して下さるすべてのの方々に感謝いたします。

まだまだコロナ禍は続きます。「With コロナ」で得た知見を「After コロナ」に生かせるときまで、しんぼうしながら続けていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人サロン 2002 理事長 中塚 義実

U-18フットサルのあゆみ

●JFA 全日本 U-18 フットサル選手権大会

開催年	優勝チーム	会場
2014 年	聖和学園 FC (宮城)	大田区総合体育館、墨田区総合体育館
2015 年	岡山県作陽高校 (岡山)	ゼビオアリーナ仙台、仙台市体育館
2016 年	帝京長岡高等学校 (新潟)	ゼビオアリーナ仙台、仙台市体育館
2017 年	矢板中央高等学校 (栃木)	ゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台 (仙台市体育館)
2018 年	帝京長岡高等学校 (新潟)	ゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台 (仙台市体育館)
2019 年	ペスカドーラ町田 U-18	浜松アリーナ
2020 年	新型コロナウイルス感染の影響で中止。	

●グリーンアリーナ神戸カップフットサルフェスティバル

夏休み期間に特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブを主催として開催されるフェスティバル。

開催年	優勝チーム	準優勝チーム
2012 年	SAKUYO Coracao de Verde	神戸国際大学附属高校
2013 年	名古屋オーシャンズ U-18	SAKUYO
2014 年	岡山県作陽高校	エンフレンテ熊本
2015 年	SAKUYO	名古屋オーシャンズ U-18
2016 年	フウガドールすみだファルコンズ	サントス サッカー ショップ
2017 年	OKAYAMA SAKUYO	フウガドールすみだファルコンズ
2018 年	SBFC ロンドリーナ U-18	ASV PESCADOLA 町田 U-18
2019 年	北海道 U-18 男子	シュライカー大阪 U-18
2020 年	立命館宇治高校	シュライカー大阪 U-18
	神戸国際大学附属高校	gatt 2008

●GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012 年に「U-18 フットサルトーナメント」として創設。

2015 年からは名称を変更し、全国 9 地域から選抜された 12 チームで大会が開催されている。

開催年	優勝チーム	会場
2012 年	名古屋オーシャンズ U-18 (愛知)	オーシャンアリーナ
2013 年	瀬戸内高校 (広島)	オーシャンアリーナ
2014 年	幕張総合高校 (千葉)	駒沢体育館
2015 年	愛知県選抜 U-18	墨田区総合体育館
2016 年	U-18 新潟県選抜	墨田区総合体育館
2017 年	U-18 新潟県選抜	墨田区総合体育館

●フットサルフェスタ (旧ホンダカップ)

1997 年から開催されているフェスティバル大会に 2010 年から U-18 カテゴリーを設定。

関東・東海・関西で予選大会が開催されている。

開催年	優勝チーム	準優勝チーム
2010 年	名古屋オーシャンズ U-18	さくようフットサル部
2011 年	府中アスレティック FC ユース	作陽 Oito Soldados
2012 年	SAKUYO Nao admitem	武相高校
2013 年	クラーク記念国際高校	東京成徳大学高校フットサル同好会
2014 年	クラーク記念国際高校	湘南工科大学附属高校
2015 年	SEIRITZ A	SAKUYO
2016 年	フウガドールすみだファルコンズ	サントス サッカー ショップ
2017 年	クラーク記念国際高等学校	フウガドールすみだファルコンズ
2018 年	サントス サッカー ショップ	SBFC ロンドリーナ U-18
2019 年	クラッキス	レボナ滋賀 U-18
2020 年	新型コロナウイルス感染の影響で中止。	

大会要項 第5回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ (2020年12月20日改訂)

1. 名称

第5回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ

2. 主催

特定非営利活動法人サロン 2002

3. 主管

長野県フットサル連盟

4. 後援

長野県、長野県教育委員会、千曲市、一般社団法人信州千曲観光局、一般社団法人長野県サッカー協会、戸倉上山田温泉旅館組合連合会（申請中を含む）

5. 協賛

各社

6. 会場

ことぶきアリーナ千曲（長野県）

7. 日程・会場

2021年1月9日（土）、10日（日）

8. 参加資格

- (1) 公益財団法人日本サッカー協会（以下、「日本サッカー協会」とする。）に加盟登録した単独のチームであること（準加盟チームを含む）。
- (2) 前項のチームに所属する 2001 年 4 月 2 日以降に生まれた選手で男女の性別は問わない。但し、高等学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない
- (3) 2020 年度の選出元の U-18 フットサルリーグまたはその代替となる大会に登録・出場している選手であること。

9. 参加チーム

参加チームは、次の各号により選出された 16 チームとする。

- (1) 地域または都道府県のフットサル連盟が主催、主管または後援して開催される 2020 年度の U-18 フットサルリーグの優勝チーム。ただし本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、優勝チーム以外のチームを、単独チーム、選抜チームを問わず、リーグにて選出することを認める。
- (2) 出場チームが 16 チームに満たない場合は、当該年度のリーグ参加チーム数の多いリーグから順にチームを選出し、16 チームでの開催とする。
（注）ただし、やむを得ない理由により 16 チーム未満での開催となることがある。

10. 大会形式

16 チームによるノックアウト方式で行う。1 回戦・準々決勝敗者による交流戦を行う。

11. 競技規則

大会実施年度の「フットサル競技規則」による。今大会は 2019/2020 競技規則を用いる。

12. 競技会規定

以下の項目については、本大会で規定する。

- (1) ピッチ 35 ～ 40 m × 16 ～ 20 m
- (2) ボール 試合球：フットサル 4 号ボール
- (3) 競技者の数 ベンチに着席できる人数は、試合開始前に提出のメンバー提出用紙に記載されている選手 14 名、役員 4 名を上限とする。

(4) 競技者の用具

① ユニフォーム

- (ア) フィールドプレーヤー、ゴールキーパーともに、色彩が異なり判別しやすい正副のユニフォーム（シャツ、ショーツ、ソックス）を参加申込書に記載し、各試合には正副ともに必ず携行すること。
- (イ) チームのユニフォームのうち、シャツの色彩は審判員が通常着用する黒色と明確に判別しうるものであること。
- (ウ) フィールドプレーヤーとして試合に登録された選手がゴールキーパーに代わる場合、その試合でゴールキーパーが着用するシャツと同一の色彩および同一のデザインで、かつ自分自身の背番号のついたものを着用すること。
- (エ) シャツの前面、背面に参加申込書に登録した選手番号を付けること。ショーツにも選手番号を付けることが望ましい。選手番号は服地に明確に区別し得る色彩であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。
- (オ) 選手番号については 1 から 99 までの整数とし、0 は認めな

い。1 番はゴールキーパーが付けることとする。必ず、本大会の参加申込書に記載された選手固有の番号を付けること。

(カ) ユニフォーム広告表示により生じる会場等への広告掲出料等の経費は当該チームにて負担することとする。

(キ) その他のユニフォームに関する事項については、日本サッカー協会のユニフォーム規程に則る。

② 靴：キャンパス、または柔らかい皮革製で、靴底がゴム、または類似の材質で出来ており、接地面が飴色、白色、もしくは無色透明のフットサルシューズ、トレーニングシューズ、または体育館用シューズタイプのもの。（スパイクシューズおよび靴底が着色されたものは使用できない。）

③ ビブス：交代要員は、競技者と異なる色のビブスを用意し、着用しなければならない。

(5) 試合時間

30 分間（前後半各 15 分間）のプレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは 5 分間（前半終了から後半開始まで）とする。

(6) 試合の勝者を決定する方法（試合時間内で勝敗が決しない場合）

- ① 交流戦は引き分けとする。
- ② PK 方式により勝敗を決定する。PK 方式に入る前のインターバルは 1 分間とする。
- ③ 決勝：10 分間（前後半各 5 分間）の延長戦を行い、決しない場合は PK 方式により勝敗を決定する。延長戦に入る前のインターバルは 5 分間とし、PK 方式に入る前のインターバルは 1 分間とする。

13. 懲罰

- (1) 本大会において退場を命じられた選手は、次の 1 試合に出場できず、それ以降の処置については当大会規律・フェアプレー委員会で決定する。
- (2) 本大会期間中、警告を 2 回受けた者は、次の 1 試合に出場できない。
- (3) その他、本大会の懲罰に関する事項については、本大会の大会規律委員会が決定する。

14. 参加申込

- (1) 1 チームあたり 26 名（役員 6 名、選手 20 名）を上限とし、選手は選出元のリーグに登録していること。
- (2) 申込み締切日以降の参加申込内容の変更は認めない。

15. 電子選手証

各チームの登録選手は、日本サッカー協会発行の電子選手証の写し（写真が登録されたもの：フットサル登録選手）、または選手証（写真が貼付されたもの：サッカー登録選手）を、代表者会議および試合会場に持参すること。電子選手証または選手証が確認できない場合は、試合に出場できない。

16. 組み合わせ

主催者において決定する。

17. 参加料

1 チームあたり 40,000 円

18. 表彰

優勝、準優勝のチームを表彰する。

19. 経費

旅費交通費は各チーム負担とする。

20. 傷害補償

チームの責任において傷害保険に加入すること。

21. 負傷対応

競技中の疾病、傷病等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。

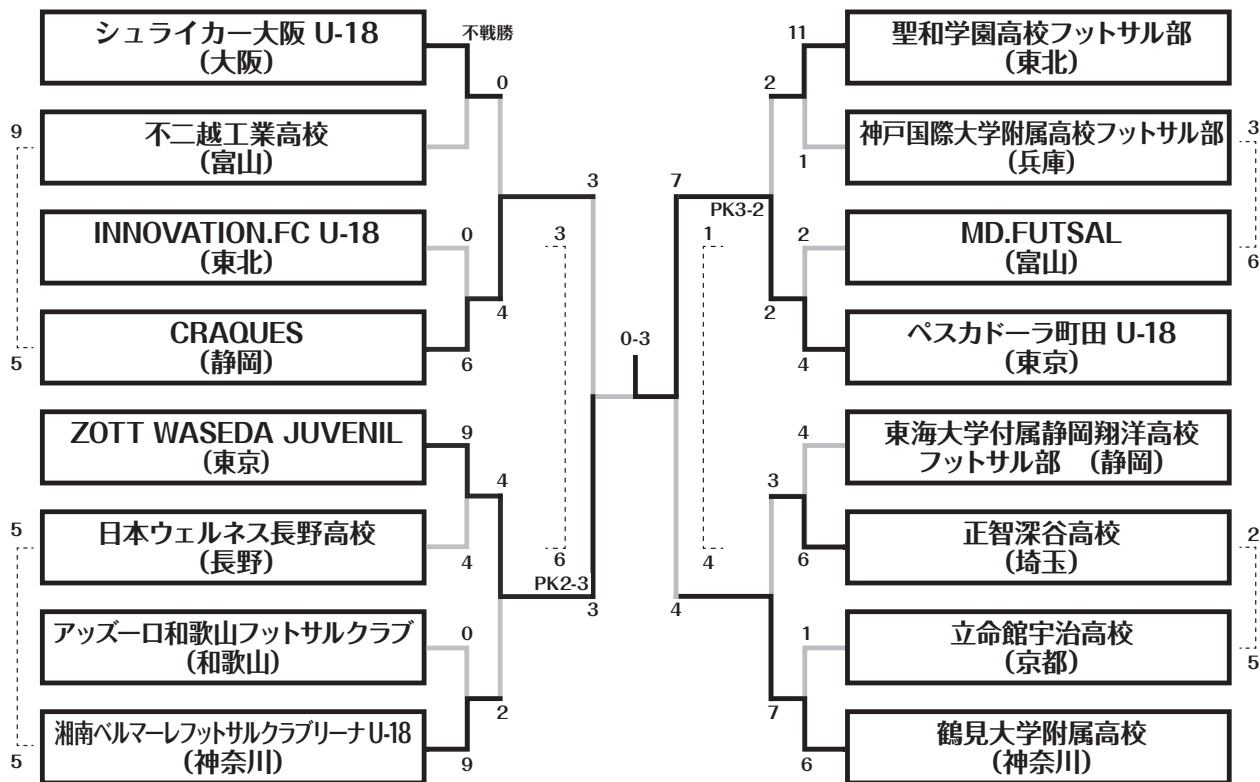
22. その他

- (1) 代表者会議は 1 月 4 日 19:00 よりオンラインにて行う。
- (2) 試合開始の 60 分前、マッチナンバー 13、14 は 40 分前にマッチコーディネーションミーティングを行い、ユニフォームを決定する。
- (3) 参加チームと選手は日本サッカー協会の基本規程および付属する諸規程を順守しなければならない。
- (4) 大会規定に違反し、その他不正行為等があった場合は、そのチームの出場を停止する。
- (5) 試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止になった場合、その帰責事由のあるチームは 0 対 5 または、その時点のスコアがそれ以上であればそのスコアで敗戦したものとみなす。
- (6) 本実施要項に記載のない事項については、主催者にて決定する。

大会結果

第5回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ

2021年1月9日(土)、10日(日) 長野/ことぶきアリーナ千曲



得点ランキング

順位	選手名	所属	得点
1	渡部 朝登	鶴見大学附属高校	6
2	亀田 航正	正智深谷高校	4
2	成田 美光	ペスカドーラ町田 U-18	4
4	山田 葵琉	CRAQUES U-18	3
4	織田 遥希	CRAQUES U-18	3
4	若林 勇太	聖和学園高校フットサル部	3
4	高橋 大樹	湘南ベルマーレ FC ロンドリーナ U-18	3
4	嶋原 直希	ZOTT WASEDA JUVENIL	3
4	草野 大空	聖和学園高校フットサル部	3
4	松野 洸佑	ペスカドーラ町田 U-18	3
4	本田 遥大	湘南ベルマーレ FC ロンドリーナ U-18	3
4	二瓶 京介	ZOTT WASEDA JUVENIL	3
4	大澤 寛治	ZOTT WASEDA JUVENIL	3



ペスカドーラ町田 U-18 (東京)

賀川浩賞 (得点王)



賀川浩

1924年神戸出身。神戸一中などでプレーした後、サンケイスポーツ編集局長などを経て、現役最年長のスポーツライター、サロン2002正会員、2010年に日本サッカー殿堂入り、2015年にはFIFA会長賞を受賞した。

渡部 朝登 選手

第1回大会の結果

エコパアリーナ (メインアリーナ) 2018年1月6日(土)~7日(日)

1次ラウンド

Aグループ		A1	A2	A3	A4
A1	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (東京都)		8 ○ 0	10 ○ 0	3 ○ 2
A2	龍谷富山高校 (富山県)	0 ● 8		8 ○ 3	6 ○ 4
A3	宝塚フットサルクラブ (兵庫県)	0 ● 10	3 ● 8		4 △ 4
A4	エンフレンテ熊本 (熊本県)	2 ● 3	4 ● 6	4 △ 4	

Bグループ		B1	B2	B3	B4
B1	PSTCロンドリーナ U-18 (神奈川県)		4 ○ 2	3 ○ 2	0 △ 0
B2	日本ウェルネス高校 (長野県)	2 ● 4		1 ● 9	3 ● 8
B3	HeroFC U18F (静岡県)	2 ● 3	9 ○ 1		3 ○ 1
B4	アリアンサフットサルクラブ (大阪府)	0 △ 0	8 ○ 3	1 ● 3	

得点ランキング

順位	選手名	所属	得点
1	内田 大登	エンフレンテ熊本U18	10
2	堀 光輝	宝塚フットサルクラブU18	6
2	松田 隼	FOOTBOZE FUTSAL U-18	6
4	山西 静樹	龍谷富山高校	5
5	松左川 晴也	アリアンサ フットサルクラブ	4
5	千野 慧太	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4
5	南雲 颯太	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4
5	原田 守久	PSTCロンドリーナU-18	4
5	原科 勇我	HeroFC U18F	4
5	村上 拓也	FOOTBOZE FUTSAL U-18	4
5	木村 芳之	HeroFC U18F	4

2次ラウンド

2017年1月7日(土)

エコパアリーナ (サブアリーナ)

Aグループ 1位 FOOTBOZE FUTSAL U-18	準決勝	4	
Bグループ 2位 HeroFC U18F		5	
Bグループ 1位 PSTCロンドリーナ U-18	決勝	2	
Aグループ 2位 龍谷富山高校	準決勝	8	
		0	



HeroFC U18F

第2回大会の結果

武田テバオーシャンアリーナ 2018年1月6日(土)~7日(日)

1次ラウンド

Aグループ		A1	A2	A3	A4
A1	名古屋オーシャンズ U-18 (愛知県第2)		5 ○ 1	4 ○ 1	5 ○ 2
A2	アズヴェール藤沢U-18 (神奈川県)	1 ● 5		3 ● 6	4 △ 4
A3	京都橘高校 (京都府)	1 ● 4	6 ○ 3		4 ○ 3
A4	不二越工業高等学校 (富山県)	2 ● 5	4 △ 4	3 ● 4	

Bグループ		B1	B2	B3	B4
B1	SANTOS FC18 (愛知県第1)		2 △ 2	12 ○ 2	9 ○ 0
B2	フウガドルすみだファルコンズ (東京都第1)	2 △ 2		7 ○ 1	12 ○ 0
B3	神戸国際大学附属高校フットサル部 (兵庫県)	2 ● 12	1 ● 7		5 ○ 3
B4	筑北SC WELLNESS (長野県)	0 ● 9	0 ● 12	3 ● 5	

Cグループ		C1	C2	C3	C4
C1	HeroFC U18F (静岡県)		2 ○ 1	2 ○ 0	5 ○ 2
C2	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (東京都第2)	1 ● 2		5 ○ 1	4 ○ 1
C3	アリアンサフットサルクラブ (大阪府)	0 ● 2	1 ● 5		3 △ 3
C4	エンフレンテ熊本フットサルU-18 (熊本県)	2 ● 5	1 ● 4	3 △ 3	

2次ラウンド



SANTOS FC18

		4	2		
		決勝			
7		2		0	6
準決勝				準決勝	
Bグループ 1位	Cグループ 1位		Aグループ 1位	Bグループ 2位	
FC18 SANTOS	U18F HeroFC		U-18 名古屋オーシャンズ	フウガドルすみだファルコンズ	

得点ランキング

順位	選手名	所属	得点
1	バレイラチアゴ ヒデキ ミヤザキ	SANTOS	11
2	山口 勝輝	SANTOS	10
3	佐々木 拓海	フウガ	7

順位	選手名	所属	得点
4	イチヤナギラファ エル ジェファソン	SANTOS	6
4	新田 朋紀	不二越工業	6
4	畠山 勇気	フウガ	6
7	下田 康聖	名古屋オーシャンズ	5

順位	選手名	所属	得点
8	横田 海斗	Hero	4
8	荒木 康作	SANTOS	4
8	山口 敬史	京都橘	4
8	川本 樹弥	名古屋オーシャンズ	4

第3回大会の結果

2019年1月5日(土)、1月6日(日) 長野/ことぶきアリーナ千曲

1次ラウンド

	Aグループ	日本ウェルネス筑北 SC	宝塚フットサルクラブ U-18	ASV PESCADOLA 町田 U-18	サントス FC/santista
A1	日本ウェルネス筑北 SC (長野県)		△ 3-3	● 2-4	● 1-10
A2	宝塚フットサルクラブ U-18 (兵庫県)	△ 3-3		● 0-9	● 0-7
A3	ASV PESCADOLA 町田 U-18 (東京都)	○ 4-2	○ 9-0		○ 4-1
A4	サントス FC/santista (愛知県)	○ 10-1	○ 7-0	● 1-4	

	Bグループ	明科高等学校サッカー部	シュライカー大阪 U-18	SBFC ロンドリーナ U-18	エンフレンテ熊本 U-18
B1	明科高等学校サッカー部 (開催地:長野県)		● 2-10	● 2-22	● 1-5
B2	シュライカー大阪 U-18 (大阪府)	○ 10-2		● 1-2	○ 6-0
B3	SBFC ロンドリーナ U-18 (神奈川県)	○ 22-2	○ 2-1		● 1-2
B4	エンフレンテ熊本 U-18 (熊本県)	○ 5-1	● 0-6	○ 2-1	

	Cグループ	不二越工業高等学校	京都橘高等学校サッカー部	ディヴェルティード旭川エルマーノス	CRAQUES
C1	不二越工業高等学校 (富山県)		● 5-8	● 2-5	△ 2-2
C2	京都橘高等学校サッカー部 (京都府)	○ 8-5		○ 5-1	○ 5-3
C3	ディヴェルティード旭川エルマーノス (北海道)	○ 5-2	● 1-5		● 1-4
C4	CRAQUES (静岡県)	△ 2-2	● 3-5	○ 4-1	

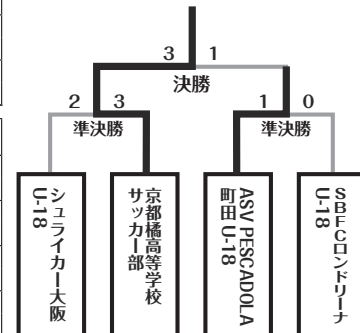
得点ランキング

順位	選手名	所属	得点	順位	選手名	所属	得点	順位	選手名	所属	得点
1	数内 涼馬	SBFC ロンドリーナ U-18	12	8	川戸 渉平	京都橘高等学校サッカー部	4	13	温 立丞	SBFC ロンドリーナ U-18	3
2	山口 勝輝	サントス FC / santista	7	8	原田 蓮人	SBFC ロンドリーナ U-18	4	13	渡辺 旺介	SBFC ロンドリーナ U-18	3
2	金沢 一矢	京都橘高等学校サッカー部	7	8	千葉 一心	CRAQUES	4	13	甲林 陸	シュライカー大阪 U-18	3
4	井口 凛太郎	シュライカー大阪 U-18	6	8	板橋 琉聖	ASV PESCADOLA 町田 U-18	4	13	岩淵 叶夢	シュライカー大阪 U-18	3
5	垣谷 将太郎	京都橘高等学校サッカー部	5	8	甲斐 稜人	ASV PESCADOLA 町田 U-18	4	13	藤本 毅	エンフレンテ熊本	3
5	林 伴二郎	京都橘高等学校サッカー部	5	13	バレイラチアゴ ヒデキミヤザキ	サントス FC / santista	3	13	石川 駿	明科高等学校サッカー部	3
5	稲本 結斗	サントス FC / santista	5								

2次ラウンド

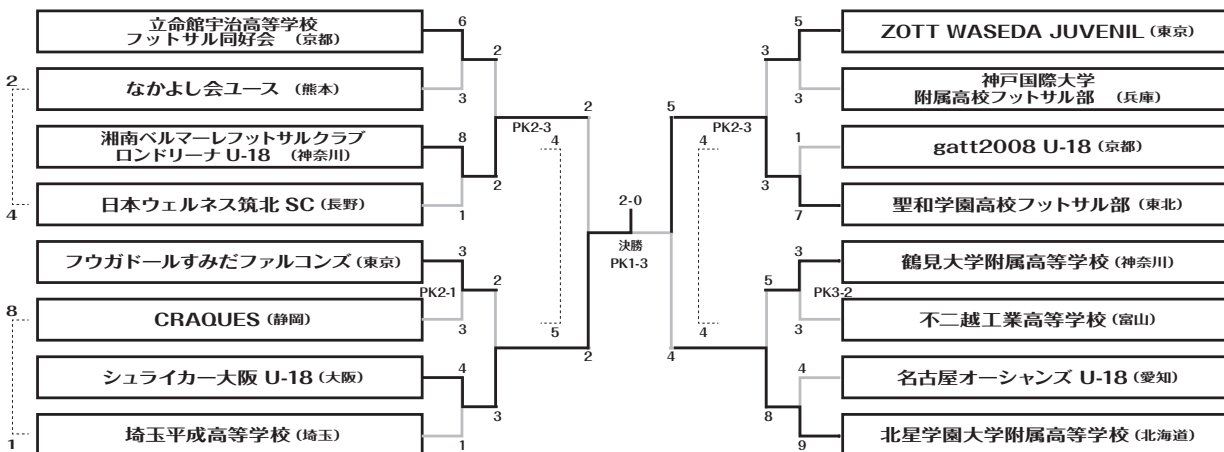


京都橘高等学校サッカー部



第4回大会の結果

2020年1月4日(土)、1月5日(日) 長野/ことぶきアリーナ千曲



順位	選手名	所属	得点	順位	選手名	所属	得点
1	畦地 智志	gatt 2008 U18	6	4	神田 亜典	ZOTT WASEDA JUVENIL	4
1	桐山 佑大	立命館宇治高校フットサル同好会	5	4	宮下 豪也	日本ウェルネス筑北 SC	4
2	田代 海	聖和学園高等学校フットサル部	5	13	伊藤 巧真	北星学園大学附属高等学校	3
4	熊谷 音乙	北星学園大学附属高等学校	4	13	松友 亮輝	神戸国際大学附属高校	3
4	嘉数 希望	シュライカー大阪 U-18	4	13	千葉 黎	CRAQUES U-18	3
4	武内 遼生	北星学園大学附属高等学校	4	13	松井 茂樹	立命館宇治高校フットサル同好会	3
4	高木 隼斗	フウガドールすみだファルコンズ	4	13	井上 統世	聖和学園高等学校フットサル部	3
4	大澤 寛治	ZOTT WASEDA JUVENIL	4	13	大石 颯馬	CRAQUES U-18	3
4	杉村 和哉	鶴見大学附属高等学校	4	13	高橋竜ノ介	鶴見大学附属高等学校	3
4	数内 涼也	湘南ベルマーレFC ロンドリーナ U-18	4				



シュライカー大阪 U-18

2 国内ユースフォーラム2020 実施報告

クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020

兼 日本オリンピックアカデミー第8回ユースセッション

国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム（国際 YF）が 1997 年度より隔年の持ち回りで開かれている。世界中から高校生 100 名以上が集まり、座学や討議、スポーツやアート活動を通してオリンピズムを学び、互いの交流を深め合う場である。主催は国際ピエール・ド・クーベルタン委員会（CIPC）である。

日本からは 2009 年より生徒の派遣を開始し、2011、2013 年は筑波大学附属高校から 2 名の生徒が参加した。ここまでは「オブザーバー」であったが、日本の生徒の評価は高く、2015 年から 7 名のフルメンバーでの参加が認められた。2013 年 9 月に 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、国内の「オリパラ教育」推進に追い風が吹く中で、国際 YF への派遣生徒の選考会を兼ねた高校生向けのオリンピック教育事業が企画され、「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム（国内 YF）」が始まった。初回は 2015 年 3 月 13～15 日に筑波大学で開催され、同年夏の第 10 回国際 YF への派遣生徒を選考した。

以後、偶数年度の 12 月に国内 YF が 2 泊 3 日で行われ、翌夏の国際 YF への派遣生徒を選考する流れができた。筑波大学とともに中京大学でも、日本オリンピックアカデミー（JOA）のユースセッション事業として開かれるようになり、両事業から生徒を選考する形となった。2019 年度には CIPC の日本支部として日本ピエール・ド・クーベルタン委員会（CJPC）が設置され、選考と派遣を担うようになった。また奇数年度にも「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」は東京都高体連研究部の主催事業として開かれ、2017、2019 年度には筑波大学附属高校敷地内の桐陰会館にて、2 日間の通いの形で実施された。特定非営利活動法人サロン 2002 はこれらの事業に共催者として名を連ね、理事長が全体のコーディネーターを務めるとともにいくつかのプログラムを担っている。

2021 年はキプロスで第 13 回国際 YF が予定されていた。7 名の派遣生徒は 2020 年 12 月に筑波大学と中京大学で開かれる国内 YF で選考することになっていたが、コロナ禍における宿泊行事は困難で

国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム

- 第1回 1997年 ル・アーブル(フランス)
- 第2回 1999年 マッチ・ウェンロック(イギリス)
- 第3回 2001年 ローザンヌ(スイス)
- 第4回 2003年 アレンツァーノ(イタリア)
- 第5回 2005年 ラートシュタット(オーストリア)
- 第6回 2007年 ターボル(チェコ共和国) ... 日本に紹介
- 第7回 2009年 オリンピア、パリニ(ギリシア) ... 日本初参加
- 第8回 2011年 北京(中国) ... 筑附高から2名
- 第9回 2013年 リレハンメル(ノルウェー) ... 筑附高から2名
- 第10回 2015年 ピエスチャニ(スロバキア) ... 日本から7名
- 第11回 2017年 ウルヌルメ(エストニア) ... 日本から7名
- 第12回 2019年 マコン(フランス) ... 日本から6名
- 第13回 「2021年キプロス」だったが...

ある。そこでオンラインでの開催に切り替え、筑波大学と中京大学が共同で主催した。開催直前に 2021 年夏の国際 YF の延期が正式に発表され、選考の目的は少し後退したが、高校生年代へのオリンピック教育をメインに実施した。

さまざまな困難はあったが、オンラインでの 2 日間のプログラムは充実した内容で、参加者の評価も高く、今後へ向けて大きな可能性を感じるものとなった。1 月末には CJPC によって 7 名の生徒が選考され、2021 年中に国際 YF の代替イベントが開催された場合は、今回選考された生徒が参加することとなる。

<事業概要（実施要項より引用。一部修正）>

【目 的】

- 1) オリンピック教育：日本の高校生にオリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解させる
- 2) 選考：2021 年予定の国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考する

【主 催】

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）
中京大学

【共 催】

日本ピエール・ド・クーベルタン委員会（CJPC）
特定非営利活動法人サロン 2002（NPO サロン）
特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー（JOA）

【協 力】 東京都高等学校体育連盟研究部

中京大学スポーツミュージアム

【期 日】

2020年12月26日(土)、27日(日)

※両日とも9:00～17:00

【会 場】 オンライン (Zoom を利用)

【参加者】 高校生32名 (および参加校教諭ほか関係者・運営スタッフ等)

参加校(人数): 筑波大学附属高校(3名)、筑波大学附属坂戸高校(2名)、中京大学附属中京高校(11名)、帝京高校(8名)、自由学園男子部(2名)・女子部(4名)、クラーク記念国際高校(2名)

【プログラムとスケジュール (時程は実際のもの)】

◆ 12月26日(土)

9:00～10:00 オープニング/オリエンテーション
※8:45から入室可

10:10～11:00 講義① オリンピズムとクーベルタン

11:10～12:00 講義② オリンピックと疫病

13:00～14:50 講義③ 国際スポーツ大会におけるおもてなしの心

15:00～17:00 演習① 中京大学スポーツミュージアム活動 (オンライン見学とグループ活動)

◆ 12月27日(日)

9:00～10:30 演習② OVEPを用いたグループ活動 ※8:45から入室可

10:40～12:10 演習③ 英語での討議

13:10～15:00 演習③のまとめと発表 (日本語)

15:10～16:00 オンラインエクササイズ

16:00～16:45 クロージング

17:00 解散

※課題レポートを12月28日(月)中に提出する

【参加費】 無料

< 2日間の様子 >

■ 12月26日(土)

オープニングでは本事業の趣旨、2日間の概要を説明した。国際YFが2022年に延期されたため、当初「第13回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム(2021年、キプロス)への参加者を選考する」としていた目的が、「2021年予定の国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考する」と改められたことを伝えた。各学校3分程度の「学校紹介」では、個性的な各学校の取り組みが紹介された。

講義①では近代オリンピックの創始者クーベルタン

の思想と行動を、講義②ではオリンピックが古代から近代にいたるまで、戦争と疫病からの復興が大きなテーマであったことを、100年前のアントワープ大会を題材として学んだ。昼休みはしっかり確保し、13時に再開。15分前には入室可能とし、生徒同士が自由に話し合える場を設けた。初対面の人とオンラインで会話する難しさはあったが、このような時間を何度か設けるうちに生徒同士の会話も徐々に弾んでいった。

午後の講義③はグローバルマナーについて、「おもてなし」をキーワードにした学習である。グループ活動の時間も設けられた。演習①は、まず中京大学スポーツミュージアムの展示物を学芸員の方がカメラを動かしながらライブで紹介、普段のミュージアム見学よりもしっかり鑑賞できると感じた。後半は、すべての五輪参加者に与えられる「参加メダル」をグループごとに作成する活動である。約30分しかなかったが、各自が手もとに用意した紙と色鉛筆、クレヨンなどでメダルの案を作り、グループで一つのアイデアにまとめる活動は、オンラインの可能性を感じさせる試みであった。各グループがつくったメダルは缶バッジとなって参加者に送付された。

■ 12月27日(日)

前日とは異なるグループで演習②③が進められた(②と③は同じグループ)。演習②は、聖火と聖火リレーについて学んだうえで「聖火リレーをデザインする」活動である。グループごとに割り当てられた地域を聖火リレーが通る設定で、どのコースを選ぶか、誰を聖火ランナーにするか、コロナ禍での留意点は、などについて意見をまとめた。30分弱の短い活動ではあったが、工夫しながら意見交換する姿が印象的であった。

演習③は国内YFの柱となるプログラムである。ここまでの学びを生かして「コロナ禍において東京2020大会を開催する意義」について議論した。90分間は日本語NGである。英語でのコミュニケーション、しかもオンラインということで、画面を共有しながら作業したり、手もとにある紙に書いたものを示したり、さまざまな方法で意思疎通を図っていた。昼休みを挟んで午後は日本語で演習③の成果をまとめ、各班が発表して活動を終えた。言葉の壁とオンラインでのグループ活動の難しさをどの班も感じ、苦労していたようだ。

最後は、全員が着替えて画面の前で運動した。筑波

大学附属高校の「朝体操（ブラジル体操）」も自由学園の「デンマーク体操」も、自宅学習期間中に実際に行われた運動プログラムである。音楽に合わせて生徒たちは楽しげに体を動かし、締めくくることができた。

クロージングでは各学校代表1名が感想を述べるとともに、CIPC 副会長の田原淳子氏が締めの挨拶をし、コーディネーターの中塚がコメントして閉会となった。終了後もしばらく別れを惜しんで会話を楽しむ様子が印象的であった。

＜参加生徒の声（全体を振り返って）＞

- ・初めてこのような zoom を使って他の学校の方と交流するプログラムに参加しましたが、二日間本当に充実した時間で、オンラインとは思えない程でした。講座はもちろん、特にグループ活動での交流を通じて、初対面の方とも積極的に自分の意見を話したりグループの意見をまとめたりする力を成長させることが出来ました。大変貴重な経験をさせていただくことができました。ありがとうございました。
- ・朝から夕方と長かったが、適度な休憩時間があったので1つ1つに集中できたし、フリータイムを使って友達を増やすことができた。ここでつながった人達と継続的に関わっていききたい。
- ・二日間という短い時間だったが、このユースフォーラムでは今まで知らなかった様々なことを知識として得ることができ、またオンライン上ではあったけれども同じ高校生とともにオリンピズムや東京2020大会のことを議論し合うことができ、とても充実した濃い時間になったと思う。このフォーラムのことについて学校で募集があったときに、最初は「オンラインで何をやるんだろう」という疑問があった。参加を決めてからは英語でのディスカッション

がとても不安だったり、事前に配布されていた参加者一覧を見ながら、みんなの頑張っていることや特技などに感心して自分にはこれといったものがないんじゃないかと早くも自信を失いかけていたり、ワクワクしつつも緊張や焦りのようなものを感じていた。しかし実際に参加してみると、講義を聞くことによって知識が増えたとし関心も広がった。

＜今後に向けて＞

はじめてオンラインで国内 YF を行ってみて、今後につながるいくつかの可能性と課題が見えた。

■可能性

- ・オンラインだからこそ筑波大学と中京大学でともに作り上げることができた。空間を超えてつながることができるのは大きなメリットである。国内のオリンピック教育をさらに広げられる可能性を感じた。
- ・オンラインで共通の講義が提供できる。演習や実習も工夫次第でいろんなことができる。今後も様々な取り組みに挑戦することで、可能性を広げていきたい。

■課題

- ・通信環境によって参加の度合いが左右されるのが課題。受信側だけでなく送信側の環境整備は必須。
- ・オンラインでさまざまなことができることがわかったのは大きな成果。一方で、対面でしかできないこと、対面の方が効果が上がることが多いのは実感としてある。対面での活動を今後も重視していきたい。
- ・オンラインだと参加者の取り組む姿勢がわからない。「ながら参加」ではなく「全集中」で臨んでもらいたい。集中力を維持できる時間や方法を探る必要がある。東京2020以降につながるオリンピック教育の内容と組織を、引き続き模索していきたい。

（文責：中塚義実）

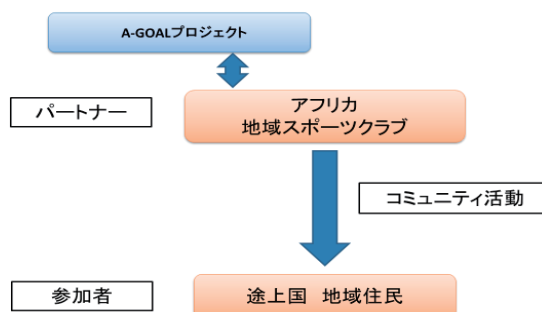


3 A-GOALプロジェクト

A-GOAL (Africa-Global Assist With Local Sport Clubs) プロジェクトは、新型コロナ感染拡大の影響を受け、失業などにより生活に困窮したアフリカの人々を「スポーツのネットワーク」を生かして支援するプロジェクトです。サロン 2002 事務局長の岸卓巨氏が中心となり、2020 年 5 月に立ち上げ、サロン 2002 でも共催団体として支援してきました。

アフリカには、スポーツの指導だけでなく独自でコミュニティ活動（清掃活動・HIV/AIDS 予防啓発ワークショップなど）を行っている地域のスポーツクラブ（サッカー・陸上など）が多数あります。A-GOAL では、そのような地域の「ハブ」になっている合計 18 のクラブと連携し、ケニア・ナイジェリア・マラウイの 3 カ国で、約 2,000 世帯・10,000 人に食糧や衛生用品を届けてきました。

A-GOAL プロジェクトの詳細は、公開シンポジウム第 2 部で発表したため、ここでは A-GOAL と SDGs（持続可能な開発目標）との関係や A-GOAL が掲載された新聞記事を紹介します。



A-GOAL と SDGs（持続可能な開発目標）の関係

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、国連サミットで決められた 2030 年までの全世界共通の目標です。国連では、SDGs の達成において、スポーツが重要なツールになると認識されています。A-GOAL でも、SDGs の達成に貢献すべくプロジェクトを進めています。



A-GOAL 紹介記事

アフリカのコロナ禍 GOAL探って



プロジェクト名はアフリカの頭文字「A」を取った「A-GOAL」。都内在住の団体職員、岸卓巨さん(34)が、5月16日に立ち上げた。大学生ら約60人が手弁当で参加し、100千円(1割は送金手数料などに充て)で支援金を集めている。「スポーツの力を生かした支援の形。SDGs(国連の持続可能な開発目標)が掲げる『貧困をなくそう』などの問題について考えるきっかけになる」と岸

元サッカー少年、100千円 支援金集め

さんは話す。



スラムの住民に支援物資を手渡すMISAの関係者(右)＝岸さん提供

現地クラブ通じ、物資配布

5月末には集まった5万円の支援金で、ケニア・ナイロビ州カワンダワレのスラム地区にあるサッカークラブ「メインストリーム・スポーツ・アカデミー(MISA)」を通じて、60世帯246人に米や豆などの食料やせつけんを送った。岸さんによると、1千円で1世帯の2週間程度の物資が買えるという。

岸さんは大学院生だった9年前、青年海外協力隊員としてケニアに渡り、支援の一環で現地のスラムにサッカークラブをつくった経験がある。コロナ禍が広がった今年4月、当時からの友人で、MISAを創立したケニア人の元選手カティリ・カルガロさんから助けを求める連絡が入った。都市封鎖で住民の7割が職を失い、携帯電話なども

売って食いつないでいる状態だという。岸さんが思いついたのがサッカークラブを通じた支援だ。「アフリカ諸国のクラブは子どもたちにサッカーの技術を教えるだけでなく、就学支援なども行い、行政や学校と住民をつなぐハブ(拠点)にもなっている」。2009年に設立されたMISAも10代の若者向けに犯罪防止の啓発活動を行うなど、地域の治安向上に貢献してきたという。

(前田大輔)

朝日新聞 (2020年6月17日付夕刊)

アフリカ・スラム スポーツ界が支援

ケニア代表・オルンガ



新型コロナウイルスの影響で暮らしているアフリカのスラム街などの人々をスポーツを通じて支援しようと、オンラインの24時間チャリティーイベントが20、21日に開かれる。J1の得点王争いで首位に立つケニア代表のオルンガ(柏)やバルセロナ五輪女子マラソン銀メダリストの有森裕子さんら約50人がボランティアで参加。現地とつながり、トクイベントなどを開く。1千世帯の食料支援のため、100万円を目標にクラウドファンディング(CF)も行う。

主催者で都内在住の団体職員岸卓巨さん(34)は「1千円で1世帯に約2週間分の食料などを届けられる」。

20・21日 24時間チャリティーイベント

マラソン・有森さん



青年海外協力隊員としてケニアに赴任した岸さんは現地のサッカークラブを通じて支援する「A-GOAL」プロジェクトを今年5月に立ち上げた。CFで資金を募り、ケニア、ナイジェリアなどのクラブを通じて4カ月間で1千世帯(約5千人)を支援してきた。アフリカのサッカークラブはサッカーを教えるだけでなく、就学支援なども行い、行政や学校と住民をつなぐ拠点にもなっており、地域の実情に応じた支援ができる。岸さんは「農業支援など自立して生活する手助けもしたい」と語る。イベントの詳細はホームページ(https://a-goal-24.patix.com/)。

の上高教島さびで

朝日新聞 (2020年6月17日付夕刊)

4

日本部活動学会 第3回研究集会

コロナ禍における部活動のすがたー「大会」の意味・意義を考える

日本部活動学会は2017年12月に発足した新しい学会である。学会大会(3月)では学術的な研究成果を、研究集会(12月)ではより現場に近い実践報告を中心に、毎年企画されている。

2020年度より同学会の理事・研究集会担当となった中塚は、当初「持続可能な部活動のあり方」を主題とする研究集会を構想していた。しかし2020年度は「新型コロナ」が部活動にも大きく影響し、またコロナ禍において改めて部活動のあり方が見直される好機となった。そこで表記テーマを掲げ、「大会」を通して部活動のあり方を考えることを企画した。

特定非営利活動法人サロン2002は後援団体として名を連ね、11月の月例会で「with コロナ」の時代に向けて⑤ー運動部活動における「大会」の意味・意義を考える>を取り上げた。12月の研究集会では、11月の月例会での議論を踏まえつつ、「文化部活動」についてもかるた競技を取り上げ幅広く議論した。

日本部活動学会は「ブラック部活動」や「働き方改革」など、部活動へのネガティブな論調の中で生まれた学会ではあるが、持続可能なよりよい部活動を志向する会員も多い。今回は部活動の意義を再認識する機会となり、あわせて部活動をめぐる議論の中に「主催者側の視点」が欠かせないことを示唆するものとなった。部活動が、スポーツを含めた文化の担い手を育てる場であるとするなら、「ささえる」人材をいかに育成するかの議論は、今後大いに為されるべきだろう。

■日本部活動学会 第3回研究集会概要

【主催】日本部活動学会

【後援】特定非営利活動法人サロン2002

【主題】コロナ禍における部活動のすがたー「大会」の意味・意義を考える

【日時・会場】2020(令和2)年12月6日(日)
16:30～18:30 オンライン(Zoomを利用)

【登壇者】(発表順)

・蔵森紀昭(成城学園中学校高等学校/全国高体連

サッカー専門部技術委員長)

・由井一成(学習院大学/神奈川県高文連かるた専門部元幹事)

・嶋崎雅規(国際武道大学体育学部教授/特定非営利活動法人サロン2002理事)

※中塚義実(筑波大学附属高等学校/特定非営利活動法人サロン2002理事長) ※コーディネーター

【参加者】42名

日本部活動学会員33名+非会員9名

■当日の日程

15:30 演者は筑波大学附属高校会議室に集合
注) 演者4名は同じ場所から配信した。

16:15～16:30 参加者入室

16:30～16:45 オープニング(中塚義実)

16:45～17:15 サッカーの事例から(蔵森紀昭)

17:15～17:45 かるた競技の事例から(由井一成)

17:45～18:15 研究者の視点から(嶋崎雅規)

18:15～18:30 ディスカッション

■各演者より

1) 蔵森紀昭

今年度は高校総体はじめ各種大会が軒並み中止となった。そんな中、正月の全国高校サッカー選手権大会開催へ向けての動きや、ノックアウト方式のカップ戦だけでなく日常生活に根差したリーグ戦をサッカー界が推進していることが紹介された。部活動改革を踏まえながら、持続可能な部活動、大会のあり方を模索しているサッカー界の姿勢が語られた。

2) 由井一成

神奈川県私立高校教員として競技かるたに深くかかわってきた経験から問題提起が為された。アニメの影響で競技かるた人口は増えたが、競技会の担い手は慢性的に不足し、世代交代は進まない。解決策の一つとしてOB・OGが運営に携わる取り組みが紹介された。

5 その他の事業

2020 年度は当初予定されていた次の事業が、コロナ禍で滞りました。

■ Non-Border ボッチャ交流会

年齢・性別・国籍・スポーツ経験・障がいなどの違いを越えて交流することを目的に、2018、2019 年度に表記事業が開催されました。いずれも 150 名ほどの多種多様な参加者が桐蔭会館（筑波大学附属中高敷地内）に集まり、多くの方がボッチャと交流を楽しみました。

しかし今年度は、人が集まること自体を避けなくてはなりません。リモートでのボッチャも検討しましたが実現には至りません。コロナが去ったあとで、改めて企画したいと考えています。

■ 「DUO リーグ」アドバイザー事業

DUO リーグは東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校・クラブユースによるサッカーリーグで、全国に広がるユースサッカーリーグのモデルとして 1996 年度に始められました。NPO 法人サロン 2002 理事長の中塚義実が初代チェアマンを務め、DUO リーグの理念や構想にはサロン 2002 の月例会の議論が大きく影響しています。

NPO サロンは 2016 年度より DUO リーグの事務局業務を受託してきましたが、2020 年度からはアドバイザー契約を交わし、側面からサポートする形をとることとなりました。残念ながら 2020 年度はコロナ禍により、DUO リーグ自体の開催がありませんでした。NPO サロンは DUO リーグ理事会の議論にかかわりながら、ユースサッカーのパイオニアとして何ができるかを示唆しましたが、具体的な活動はほとんどできませんでした。

■ リサイクルプロジェクト／スキンプロジェクト

サロン 2002 では、履けなくなったサッカーシューズや使えなくなったサッカーボールの「革」を活用してコインケースやキーケース、サンダル

などを制作する「リサイクルプロジェクト／スキンプロジェクト」に取り組んできました。2008 年度に DUO リーグの「トロフィーがない！プロジェクト」でできあがった巨大靴型トロフィーを契機にはじまったこの活動は、スポーツとアートの融合、“遊び心”を形にしたイベントとして、その後も随時行われてきました。

今年度は人が集まる場を設けることができず、開催できませんでした。コロナが去ったあとで、改めて企画したいと考えています。

なお、DUO リーグの巨大靴型トロフィーは、12 年間活用したのち新たなトロフィーを作ることになっていましたが、今後も継続して使うことになっています。



■ SPORT FOR TOMORROW 事業／ Sport in Life 事業

NPO 法人サロン 2002 は、SPORT FOR TOMORROW (SFT) コンソーシアムの会員です。交流会等にはこれまでも積極的に参加してきましたが、今年度はオンライン交流が中心となりました。サロン 2002 のメンバーには他の SFT コンソーシアム会員にかかわる人も多く、この事業を通して交流を深め合っています。

Sport in Life についても NPO サロンは参画団体に名を連ねていますが、いまのところ具体的な動きはありません。

事業報告

6 サッカー×アート シンポジウム



【シンポジウム】

サッカー×アート

日本サッカーのシンボルをめくって

2020.1.26 日 13:00 -17:00

桐蔭会館（筑波大学附属中学・高等学校敷地内）

日本サッカーの歴史には、現在の筑波大学と東京藝術大学が関わっている。2020年夏には1964年以来となる夏季オリンピック「東京2020」が開催される。本シンポジウムでは、この東京2020を見据えて、サッカーとアートのコラボレーションの歴史を振り返りたい。

主催：筑波大学芸術系
後援：公益財団法人日本サッカー協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター・秩父宮記念スポーツ博物館、筑波大学蹴球部同窓会若友サッカークラブ、NPO法人日本スポーツ芸術協会、日本ヤタガラス協会、熊野三山協議会、NPO法人サロン2002

サッカー×アート

日本サッカーのシンボルをめぐって

日本サッカー協会のシンボルである「三足鳥」。これを発案したのは、東京高等師範学校・東京文理科大学（現筑波大学）の教授であった内野台嶺（1884-1953）と東京美術学校を卒業した彫刻家の日名子実三（1892-1945）らであった。内野は、漢文学を専門とし、大日本蹴球協会（現日本サッカー協会）の初代理事の一人を務めた。彼らは内野の先輩であり、日本のサッカー普及に尽力した中村覚之助（1878-1906）の出身地であった熊野のシンボル「八咫鳥」に着想を得て、「三足鳥」をデザインしたと言われている。

このように、日本サッカーの歴史には、現筑波大学と東京藝術大学が関わっている。2020年夏には1964年以来となる夏季オリンピック「東京2020」が開催される。本シンポジウムでは、この東京2020を見据えて、サッカーとアートのコラボレーションの歴史を振り返りたい。



JFA (日本サッカー協会) シンボル

プログラム

13:00	開催挨拶 永田 恭介(筑波大学 学長)
13:05	趣旨説明 太田 圭(筑波大学 芸術系長)
13:15	基調講演 HIBINO meets SOCCER 日比野 克彦(東京藝術大学 美術学部長・日本サッカー協会 社会貢献委員長)
14:10	休憩
14:20	講演① 三本足のカラスはどこから来たかーシンボルの由来をたどる 檜山 満照(早稲田大学文学学術院 講師)
14:45	講演② 三足鳥と内野台嶺 小松 建男(筑波大学人文社会系 教授)
15:10	講演③ 内野台嶺と中村覚之助 中塚 義実(筑波大学附属高等学校保健体育科 教諭)
15:35	講演④ 時代を映す彫刻家・日名子実三 宮坂 慎司(筑波大学芸術系 助教)
16:00	休憩
16:15	ラウンドテーブル 日比野 克彦+太田 圭+真田 久(筑波大学体育系 教授)
17:00	閉会挨拶



内野 台嶺 (うちの たいれい)

神奈川県橋本郡大網村（現：横浜）出身。1909年の東京高等師範学校を卒業後に教師として赴任した東京府豊島師範学校では、サッカー部を設立し普及に努め、1917年には日本初のクラブチーム東京蹴球団の設立に尽力。1921年に大日本蹴球協会（現日本サッカー協会）の創設に尽力。内野は初代理事の一人として、東京蹴球団の役員達も理事や委員として運営を担った。



中村 覚之助 (なかむら かくのすけ)

1878年、和歌山県東牟婁郡那智町（現：那智勝浦町）浜ノ宮で生まれ。1900年東京高等師範学校（現：筑波大学）に入学。1903年イギリスの本を翻訳、さらに編集をし日本最初のサッカー指導書「アソシエーションフットボール」を東京高等師範学校蹴球部（現：筑波大学蹴球部）の名で出版。東京高等師範学校を卒業後の翌年、山東省済南師範学校へ国から派遣された。



日名子 実三 (ひなご じつそう)

白杵中学校（現：大分県立白杵高等学校）を卒業後、1913年東京美術学校彫刻家望造部へと入学し首席で卒業。学生時代から朝倉文夫の弟子として学び、1919年には作品「晩春」が帝国美術展覧会に入選する。1925年に作品の方向性の違いから独立することを選び、斎藤素蔵と共に構造社を結成する。1931年には、漢文学者・内野台嶺らの発案を基に八咫鳥を題材に、大日本蹴球協会の「シンボルマーク」を手がける。

日時：2020年1月26日（日） 13:00-17:00

場所：桐陰会館（筑波大学附属中学・高等学校敷地内）

アクセス

〒112-0012

東京都文京区大塚1-9-1

筑波大学附属中学・高等学校敷地内 桐陰会館

東京メトロ

丸の内線 茗荷谷駅より徒歩10分

東京メトロ

有楽町線 護国寺駅より徒歩 8分



主催：筑波大学芸術系

後援：公益財団法人日本サッカー協会、筑波大学蹴球部同窓会茗友サッカークラブ

独立行政法人日本スポーツ振興センター・秩父宮記念スポーツ博物館

NPO法人日本スポーツ芸術協会、日本ヤタガラス協会、熊野三山協議会

NPO法人サロン2002

問い合わせ先：水野 裕史（筑波大学芸術系 助教）

E-mail: myuji@geijutsu.tsukuba.ac.jp

